

研究領域特別研究指導

選択必修 定員なし 前／後期 1 時間 通年で 0 単位 1～3 学年

定員の実施方法 なし

授業の目的・内容

研究指導教員による毎週の個人指導及び年 2 回の総合ゼミにおける複数教員による指導のもとで、各人の研究テーマに基づく博士論文作成について研究する。

到達目標

最終的に博士論文審査に合格できるだけの実力を身に着けることを目指す。

評価方法

授業への参加度 100%

テキスト・参考書

テキストは用いず、適宜資料を配布する。

授業計画

①～④ 毎回受講生と相談しながら博士論文を仕上げていく。

準備学習（予習・復習等）

毎回必ず予習・復習をし、分からない用語等は調べておくこと。

別途負担費用

不要

作曲研究

選択必修 定員なし 前／後期 1 時間 通年で 2 単位 1～3 学年

定員の実施方法 なし

授業の目的・内容

現代音楽の作曲技法について研究する。

到達目標

現代音楽についての知識が深まることを到達目標とする。

評価方法

授業への参加度 100%

テキスト・参考書

テキストは用いず、適宜資料を配布する。

授業計画

①～④ 毎回受講生と相談しながら取り上げる作曲作品を決定し、その作曲技法について研究する。

準備学習（予習・復習等）

毎回取り上げる作曲作品の譜面を用意し、作曲技法について調べておくこと。

別途負担費用

不要

音楽学研究

選択必修 定員なし 前／後期 1 時間 通年で 2 単位 1～3 学年

定員の実施方法 なし

授業の目的・内容

音楽学に関する諸方法論を研究する。『音楽学』所収の学術論文を取り上げ、そこに見られる様々な研究方法を検討する。

到達目標

音楽学に関する研究方法についての知識が深まることを到達目標とする。

評価方法

授業への参加度 100%

テキスト・参考書

適宜必要な資料を配布する。

授業計画

①～④ 『音楽学』所収の様々な分野の学術論文を取り上げ、ディスカッションしながらそこに見られる研究方法について検討を進める。

準備学習（予習・復習等）

配布された学術論文を事前にしっかり読んでおくこと。

別途負担費用 不要

宗教音楽学研究

選択必修 定員なし 前／後期 1 時間 通年で 2 単位 1～3 学年

定員の実施方法 なし

授業の目的・内容

キリスト教典礼音楽について歴史的、文献的に研究する。

到達目標

キリスト教典礼音楽についての知識が深まることを到達目標とする。

評価方法

授業への参加度 100%

テキスト・参考書

金沢正剛『キリスト教と音楽——ヨーロッパ音楽の源流をたずねて』（音楽之友社刊）

授業計画

①～④ 毎回上記テキストを読みながら、音を聴く。

準備学習（予習・復習等）

事前に予習をし、分からない用語等は調べておくこと。

別途負担費用

不要

音楽教育学研究

選択必修 定員なし 前／後期 1 時間 通年で 2 単位 1～3 学年

定員の実施方法 なし

授業の目的・内容

音楽教育の歴史と理論について研究する。

到達目標

音楽教育の歴史と理論についての知識が深まることを到達目標とする。

評価方法

授業への参加度 100%

テキスト・参考書

河口道朗監修『音楽教育史論叢Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』（開成出版刊）

授業計画

①～④ 毎回上記テキストから主要なものをいくつか取り上げ、音楽教育の歴史と理論についてディスカッション形式で考察を深める。

準備学習（予習・復習等）

上記テキストを事前にしっかり読んで、分からない用語等は調べておくこと。

別途負担費用 開講時に説明する。

声楽研究

選択必修 定員なし 前／後期 1 時間 通年で 2 単位 1～3 学年

定員の実施方法 なし

授業の目的・内容

オペラやリートの演奏技術について研究をする。

到達目標

学年末に実施されるリサイタル形式の試験がこなせる実力を身につけることを目指す。

評価方法

授業への参加度 100%

テキスト・参考書

適宜資料を配布する。

授業計画

①～④ 毎回受講生と相談しながら取り上げる曲目を決定し、その演奏技術について研究を進める。

準備学習（予習・復習等）

毎回取り上げる曲目の譜面を用意し、演奏技術について下調べをしておくこと。

別途負担費用

開講時に説明する。

器楽研究

選択必修 定員なし 前／後期 1 時間 通年で 2 単位 1～3 学年

定員の実施方法 なし

授業の目的・内容

鍵盤楽器、弦楽器、管打楽器における高度な演奏解釈を要する器楽曲を研究する。

到達目標

学年末に実施されるリサイタル形式の試験がこなせる実力を身につけることを目指す。

評価方法

授業への参加度 100%

テキスト・参考書

適宜資料を配布する。

授業計画

①～④ 毎回受講生と相談しながら取り上げる曲目を決定し、その演奏解釈について研究を進める。

準備学習（予習・復習等）

毎回取り上げる曲目の譜面を用意し、演奏解釈について下調べをしておくこと。

別途負担費用 不要

音楽史研究

片桐 功

選択必修 定員なし 前／後期 2 時間 通年で 2 単位 1～3 学年

定員の実施方法 なし

授業の目的・内容

西洋音楽史を中心に取り上げる。楽譜と音を通じて音楽様式の変遷を的確に把握することを目指す。

到達目標

西洋音楽史についての知識が深まることを到達目標とする。

評価方法

授業への参加度 50%、定期試験 50%

テキスト・参考書

D.J.グラウト、C.V.パリスカ（戸口幸策、津上英輔、寺西基之共訳）

『グラウト／パリスカ 新 西洋音楽史』上・中・下巻（音楽之友社刊）

授業計画

①から⑭ 毎回上記テキストを読みながら、楽譜を見、音を聴く。

準備学習（予習・復習等）

事前に予習をし、分からない用語等は調べておくこと。

別途負担費用

開講時に説明する。

楽曲分析研究

選択必修 定員なし 前／後期 2 時間 通年で 2 単位 1～3 学年

定員の実施方法 なし

授業の目的・内容

声楽や器楽の様々な楽曲を取り上げ、様式的、楽器学的観点からの分析を研究する。

到達目標

様式的、楽器学的な分析についての知識が深まることを到達目標とする。

評価方法

授業への参加度 100%

テキスト・参考書

適宜資料を配布する

授業計画

①～④ 毎回受講生と相談しながら取り上げる曲目を決定し、その楽曲分析を試みる。

準備学習（予習・復習等）

事前に予習をし、分からない用語等は調べておくこと。

別途負担費用

不要

原典研究

選択必修 定員なし 前／後期 2 時間 通年で 2 単位 1～3 学年

定員の実施方法 なし

授業の目的・内容

受講生の関心に応じて、ギリシア語、ラテン語、イタリア語、フランス語、ドイツ語、英語等で書かれた音楽書を研究する。

到達目標

各外国語によって書かれた音楽書の理解が深まることを到達目標とする。

評価方法

授業への参加度 50%、定期試験 50%

テキスト・参考書

適宜資料を配布する。

授業計画

①～④ 毎回音楽書を読み進め、内容の把握に努める。

準備学習（予習・復習等）

事前に予習をし、分からない用語等は調べておくこと。

別途負担費用

開講時に説明する。

音楽文献研究

選択必修 定員なし 前／後期 2 時間 通年で 2 単位 1～3 学年

定員の実施方法 なし

授業の目的・内容

学術論文の書き方について、テーマの設定や文献の探し方を含めて研究する。

到達目標

学術論文の書き方についての知識が深まることを到達目標とする。

評価方法

授業への参加度 50%、レポート・課題提出 50%

テキスト・参考書

適宜資料を配布する。

授業計画

- ① オリエンテーション
- ② 各自研究テーマの発表
- ③ 従来の研究書・研究論文の調べ方
- ④ 楽譜目録・雑誌目録の紹介
- ⑤ パソコンによる文献検索法
- ⑥ 学術論文作成の手引き (1 注の書式)
- ⑦ 学術論文作成の手引き (2 参考文献表の書式)

- ⑧～⑨ 各自参考文献表の発表
- ⑩～⑫ 論文の構成を考える
- ⑬～⑮ 各自読み進めたところの発表
- ⑯～⑰ 論文構成の発表
- ⑱～㉑ 参考文献の点検
- ㉒～㉔ 論文内容の点検

準備学習（予習・復習等）

毎回与えられた課題を着実にこなした上で、次回に臨むこと。

別途負担費用

不要